

令和元年度第1回多摩市一般介護予防事業評価委員会

日時：令和元年7月16日（火曜日） 15時00分～16時15分

会場：多摩市役所 東庁舎会議室

出席者：明石のぞみ委員長 川崎和三委員 松本祐子委員

瀧真木子委員 新沼園美委員 大淵修一委員

欠席者：田中千秋副委員長 内田達二委員

事務局：高齢支援課 伊藤高齢支援課長 戸川介護予防推進係長 水谷主任

須田主任 榎本主事 佐々木主事 高橋主事

健康推進課 田中主任

保険年金課 西主事

国士舘大学体育学部 永吉准教授

介護予防による地域づくり推進員 桐林理学療法士

公開区分：公開

傍聴者：なし

【事務局】 それでは、皆様、定刻になりましたので、これから令和元年度第1回目の多摩市一般介護予防事業評価委員会を開催したいと思います。

まず、事務局の高齢支援課長から挨拶をさせていただきます。

【事務局】 皆様、本日はお足元の悪いところをお出かけいただきまして、ありがとうございます。ぜひ今年度もどうぞよろしく願いいたします。

一般介護予防事業につきましては、昨年度、TFPPを始めましたり、近所de元気アップトレーニングという通いの場も創出することができてということで、かなり成果が上がっているなと思っております。

国のほうでは、健康寿命延伸プランというのが最近できて、その中で2020年までに高齢者の6%の人が週1回以上の通いの場に行けるようにということで、昨年度の実績を見ますと、うち6.5%になっておりまして、「あ、もうクリアだな」と思っているんですけども、いやいや、まだまだ1割の方々が通って、お元気でお過ごしいただけるように進めていきたいと思っております。

ぜひご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。

本日は、平成30年度で任期が終了いたしましたので、新たに正副委員長の互選を行い、その後、会議を行いたいと思っております。正副委員長が決まりますまで、事務局のほうで進行をさせていただきます。

本日、欠席の委員は田中委員、また、内田委員は1時間ほど遅れますということでご連絡が入っております。

それでは、次第をごらんください。今、辞令の交付ということで2番目に移ります。本委員会の委員の委嘱状でございますが、事前に各委員の席にお配りさせていただいております。ご確認をよろしくお願いいたします。

続きまして、3番、委員と事務局の紹介をさせていただきます。それでは、資料1の評価委員会委員名簿をごらんください。名簿順に自己紹介でお願いできますでしょうか。

【委員】 私、明石と申します。昨年度までと同様、よろしくお願いいたします。

【事務局】 田中さんは欠席で、内田先生は遅れるということなので、川崎委員、よろしくお願いいたします。

【委員】 多摩歯科医会から来ております川崎です。歯科医師です。よろしくお願いいたします。

【委員】 東京都南多摩保健所の栄養士をしております松本と申します。よろしくお願いいたします。

【委員】 東部地域包括支援センターから参りました看護師の瀧と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員】 中部地域包括支援センターの保健師の新沼と申します。よろしくお願いいたします。

【委員】 東京都健康長寿医療センターの大淵でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 続きまして、事務局の職員を紹介させていただきます。

私、高齢支援課の介護予防推進係長をしております戸川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 高齢支援課の須田と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局】 同じく水谷です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 同じく佐々木です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 同じく高橋と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局】 健康推進課の保健師の田中です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 保険年金課の保健師の西です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 国士舘大学体育学部の永吉です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 介護予防による地域づくり推進員の桐林です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 皆様、ありがとうございました。今年度はこのメンバーで進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議日程と資料の確認をさせていただきます。

まず、資料の確認ですが、ただいまごらんいただきました資料1が一般介護予防評価委員会の委員名簿、資料2-1が評価委員会の設置要綱、資料2-2が傍聴人要領、資料2-3が一般介護予防評価委員会の運営について、次に資料3でA4横の資料でホチキスどめをさせていただいております多摩市介護予防・日常生活支援総合事業の平成30年度実績及び平成31年度計画について、資料4が介護予防手帳についてということで、パワーポイントでA4の資料がございます。最後に資料5として、第8期多摩市高齢者保健福祉計画策定に向けた取り組みについてということで、A4裏表の資料になっております。

以上、皆様、過不足等ございませんでしょうか。

続きまして、本日の会議日程です。ただいま委員と事務局の紹介まで終わりました。この後、委員長と副委員長の選出、その後、6番目として報告事項が1件、7番目として協議事項は、介護予防手帳についてと第8期の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けての取り組みについての2件です。終了は大体午後5時を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題に沿って、4番の評価委員会の運営方法についてということで、事務局からご説明をさせていただきます。資料2-1の要綱をごらんください。

設置要綱ですが、第1条として、地域づくりの観点から総合事業に関すること、評価結果に基づいて総合事業の改善を行うため、評価委員会の設置をするということで、1条に定めております。

任期としては2年間です。

続きまして、傍聴人要領として、傍聴人の定員は10人とさせていただいております。本日は特に傍聴はございません。

続きまして、資料2-3の委員会の運営について。こちらは設置要綱と傍聴人要領を抜

粹して、なおかつ、重要な点ということで書かせていただいております。会議というのは、基本的には公開をさせていただいております。会議録を作成しまして、個人情報編集した上で多摩市の公式ホームページ、所管課窓口、行政資料室で公開の予定になっております。

以上、簡単ですが、一般介護予防事業評価委員会の設置要綱、傍聴人について、運営についてご説明をさせていただきました。皆様方、何かご質問等ございますでしょうか。

ないようですので、それでは、議題5、委員長と副委員長の選出に入らせていただきます。こちらは設置要綱の第5条の規定により、委員長及び副委員長は委員の互選ということになっております。皆様いかがでしょうか。委員長、副委員長への立候補あるいはご推薦はございますでしょうか。

(挙 手)

【事務局】 お願いします。

【委員】 私ではございませんが、引き続き、明石先生に委員長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(拍 手)

【事務局】 ただいま、明石委員を委員長に推薦というご提案がございました。ありがとうございます。特にご異議がありませんので、明石委員に今年度委員長をお願いしたいと思います。

続きまして、副委員長への立候補あるいはご推薦はありますか。

【委員長】 では、私から。

引き続きまして、田中委員をお願いしたいと思います。本日はちょっと欠席ですが、事務局から何か。

【事務局】 本日、欠席ではございますが、皆様から特にご異議がなければ、田中委員に副委員長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(拍 手)

【事務局】 ありがとうございます。

では、ご異議がありませんので、田中委員に副委員長をお願いしたいと思います。

では、本委員会の互選により、委員長を明石委員、副委員長を田中委員に務めていただくことで決定をいたしました。

以後の進行につきましては、委員長席にそのままお座りいただいて、会議を進行してい

ただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【委員長】 では、改めまして、皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。ふつつかながらでございますけれども、昨年と同様でございますが、皆様の協力をよろしくお願いいたします。

では、次に報告からよろしいでしょうか。

【事務局】 はい。

【委員長】 では、次第の6、報告（1）多摩市介護予防・日常生活支援総合事業の平成30年度実績及び平成31年度計画についてに入ります。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、資料3の多摩市介護予防・日常生活支援総合事業平成30年度の実績及び平成31年度の計画をごらんください。

こちらは前回、2月に行ったときに、1月末の実績をご報告させていただいております。変更のあった部分のみご説明をさせていただきます。

①のTAMAフレイル予防プロジェクトは、平成30年度が終わった時点で、全部で28回、724人の参加をいただいております。令和元年度の取り組み内容と、そのまま横を見ていただくと、現状における課題とその課題に対しての今後の取り組みの予定もあわせて記載しております。特にTAMAフレイルに関しては、昨年度から全市展開をしております。これから参加者増に向けた周知、PRの方法、事業参加後の活動状況の把握なども課題として捉えております。

次に、うんどう教室。30年度が終わりまして、2カ所で22回、参加者実数94人、延べで587人の参加をいただいております。こちらもなかなか新規参加者の増加に向けたPRというのがまだまだ少ないのではないかとということで、課題として捉えております。今後もたま広報への掲載等を継続実施していく予定です。

2ページ目をごらんください。地域介護予防教室です。ただいま14カ所となっておりますが、平成30年度末では13カ所、回数としては595回、1,014人の実数で2万人を超える参加者の方に来ていただいております。参加者が多いというのは大変ありがたいお話ではあるんですけれども、各教室、それぞれ今もうほんとうにぎゅうぎゅうの状態、なかなかどうしようかなというところはございます。

ただ、今後、将来の取り組みに向けて、小学校通学区域ごとに20カ所の開設を目指しておりますので、人数の問題、場所の問題、それぞれこれから考えていかなければいけな

いことだと認識しております。

3番目、介護予防ボランティアポイント。今、受け入れの機関が51機関、実数として79人、延べ人数として414人です。課題としては、登録施設が50カ所以上あるんですが、実際にボランティアをしたい方、あとは受け入れをするボランティアの施設側、このニーズがうまくいかないところがありますので、今年度に関しては、登録者の希望に合うものと施設側のニーズを合わせながら、それぞれフォローを実施していきたいと考えております。

うんどう教室地域指導員の養成ですが、平成30年度は指導員養成はございませんでした。今年度、新たに地域指導員の養成をしております。現在、人数が少ないですが講座をやっております。

5番の介護予防リーダー養成講座、こちらは前回と基本的には変わっておりません。養成者数としては、延べで111人、そのうちの約8割の方が何らかの地域の介護予防活動を行っており、大変ありがたく思っております。

大きな3番、地域リハビリテーション活動支援事業。平成30年度は31回の派遣を行っております。参加者延べ数が345人となっております。

最後、4ページ目。こちらはサービス事業になります。①の通所型短期集中予防サービス事業、通称元気塾です。経年経過を見ていただくと一目瞭然なんですけれど、利用人数が少なく、稼働率が低い状態です。3カ所で119人ということで、参加された方というのは非常に満足度が高く、目標達成率も85%近くになっております。ただ、利用人数が少ないというのは高齢支援課のほうでも今後どうしたらいいのかなということで、今年度に関しては、今いろいろな企画を考えております。またその企画に関して皆様からアイデアをいただければと思っております。

総合事業の住民主体による訪問型サービス。こちら実数としては増えているんですけど、やはりなかなか事業の周知とか理解が十分ではなく、また、事業所ごとにそれぞれマッチングがうまくいかなかったりとか、どうしても生活サポーターの数が少ない地域があったりということで、ちょっと難しい、生活サポーター不在の地域を減らしたりとか、そういったようないろいろな取り組みが必要なんじゃないかと捉えております。

最後、簡単にまとめということで、パワーポイントで1枚つけております。今、一般介護予防事業、また、サービス事業のほうで課題として捉えているものが、フレイル予防プロジェクトや一般介護予防事業のさらなる周知、あと、地域のリハビリテーション職の拡

大ということで、今、こちらにいらっしゃる介護予防による地域づくり推進員の方のお力もかりて、市内の地域のリハ職の連絡会を立ち上げて、いろいろなサロンだとか自主グループにリハビリテーション、理学療法士さん、作業療法士さんを派遣して、いろいろな支援をしていただいております。それに向けて、支援の調整等が難しい状態になっていますので、これにも工夫が必要なのかと思っております。

あと、繰り返しになるんですけど、通所型短期集中予防サービスの稼働率の増加、または住民主体の訪問型サービスの取り組みについての幾つかの課題、これに関して8期に向けてということで、課題の解決に向けていろいろやっつけていかなきゃいけないというところなんです。

31年度、新規の事業ということで、個人レベルのセルフケアによる介護予防を推進するための介護予防手帳というのを今年度作成、配付したいと思っております。今、皆様の上に介護予防手帳を置かせていただいているんですけども、後ほど協議案件のほうで担当から詳しくご説明をさせていただきます。

内容充実ということですが、国土舘大学のご協力をいただいて、今年度、フレイル予防プロジェクトに参加いただいた方にメンバーズカードを配付する予定です。このメンバーズカードを配付することによって、参加した方がこれからどういった事業につながっているのかとか、過去の測定値を追いかけるのに使えるのではないかとということで、今年度から新たにメンバーズカードの作成及び配付を行います。

あと、大きなところでは、同じ高齢支援課ですが、別の係のほうで自立支援、介護予防に向けた地域ケア会議、東京都の構築支援モデル事業というところに高齢支援課は今年度手挙げをしております。そのモデル事業にもうちの係の保健師、水谷が参加して、地域ケア会議等いろいろ参加をしながら、地域課題に向けて今後どうしたらいいか、また、高齢者の方の自立支援に向けてどういったことができるのかということを検討していくという形になっております。

以上、前年度の実績と今年度の取り組みについてざっと説明をさせていただきました。

【委員長】 ありがとうございます。

では、この件につきまして、ご意見ございませんか。

ちょっと私のほうから。元気塾を利用させていただくために、原因というか、そういうのは市としてお考えになっていらっしゃると思うんですけども、対応策としては、包括を経由していきますので、私がちょっと考えるのは、移動のことだとか、あとは包括

の手續が大変だという意見もちょっとあつたりするので、少し手續があれであれば、簡略化できる点はないのかとか、何かそういう改善といいますか、ただただ進めても多分難しいだろうなと思っています。その辺も包括さんと相談していただいてというか、包括は多分わかっているんですよね、理由が。そのあたりにどう対応していくかということだと思うんですけども。

よろしいですか。ご意見ありませんか。

【委員】 私たちの東部と中部さんあたりもわりと諏訪とか桜ヶ丘とか、私たちのところは行きやすいというのがあると思うんですけど、ただ、ほかのエリアに関しては、バスの移動とかが難しいエリアがあつたりとか、バス停までの移動が難しいお体だつたりとか、そういうのもあつて、なかなかつながりにくいところもあるのかと思っているのと、手續はやりたいというご希望があれば、もちろん私たちも何回か足を運んで、アセスメントをとつたりとか、あと、今ちょっと様式が変わっているので、ご本人さまたちと相談しながら、どういうふうになりたいかとか、ご意向とかを最初に確認したりする書式があるので、やつたりはするんですけども、まだなれていない点もあるのであれですが。

私は、一番の要因は、行けるかなという足の部分が大きいかなというの、通うのも含めてのリハビリだよというふうにはご説明するんですけど、そもそもそこまでの体力がないという方とかも結構多かつたりするので、お気持ちはあつても、なかなかお体の面でそこまで行けないのかなという方もいらっしゃるのかなと思っています。

【委員長】 もうちょっと軽い人だったら行けるんですけど、そういう人たちはいないんですかね。

【委員】 あとは、地域の介護予防教室のほうが住民の皆さんは周知がかなりできてきているので、そっち側に行けているのでいいやという方々もいらっしゃいますし、通うんだつたら、やっぱりデイサービス、送迎つきというところのイメージがまず大きいので、そこを切り崩していくというのが結構大変な作業になってくるかなというところです。

【委員長】 搬送というか、一番はそこですかね。ありがとうございます。

ほかは特にございませんか。地域リハビリテーション活動支援事業、いろいろ取り組み始めましたが、よろしいですか。

【委員】 じゃあ、僕から。

【委員長】 はい。

【委員】 ちょっと質問なんですけど、対象者が使いたいと思うニーズはどうかという

問題と、もう一つは、アセスメントをした中で、本人は望んでいなくても、そっち側は適当だなという場合とあり得ますけど、そのニーズはどのくらいあるのかということと、皆さんの見立てとして、もっといっぱいあったほうがいいのか、あるいはこれくらいなのかというところについては教えてほしいんですけども。

【委員】 もっといっぱいというのは、元気塾の場所がいっぱいあったほうがという。

【委員】 場所があつたりとか、ほんとうはそうすべきなんだけど、本人たちが選ばない。

【委員】 まだまだ元気塾に対しての周知が住民さんされていないので、私たちがまず訪問に行って、こういったサービスがあるんですよということで初めて知るので、ニーズというと、行くと初めて知るといので、そこまでのニーズを把握するところが難しいというところが1つです。

まず訪問に行くと、先ほど言ったとおり、通所型は送迎つきというところでの話から電話が入ってくるので、そこからアセスメントして、いやいや、まだバスに乗って出かけられるから、私はこっちだと思いますよというところのすり合わせの作業だったりとかがあるので、住民さんにとってのニーズはどうですか。

【委員】 なかなか難しいですね。

【委員】 はい。ただ、リピーターは多いです。行くとやっぱりよかったという方が多くて、そこから1年、2年たって、何か体調の変化があると、そこは、「あ、また行きたいな」という活用方法がかなり最近多いというか、言われる方は多いです。

【委員】 じゃあ、先程の質問に関連してですけど、結局、これまでの介護保険の仕組みとしては、利用者のニーズをベースにして、それにサービスを提供するのがケアプランでした。今回は地域ケア会議、自立支援型地域ケア会議みたいなものを通して、ある意味、専門職の見立てみたいなのもやっぱり大事にして、リハビリではあるんですが、本人は望んでいなくても、こうしたほうがいいというふうに話す場合があるんだけど、それをこれから取り入れていく時期になるんじゃないかなと思っていて、ここでニーズがないからといって諦めるわけではなくて、専門職として安易に送迎を使っちゃったら、そこから離れられなくなるというのがあるので、やっぱりそれはこの見立てとしてこれが大事だと。自分だけで説明し切れなければ、地域ケア会議を通して、いろんなネットワークでフォローするとか、そういう構築をするべきだと思うんです。

なので、この議論についても、ご本人のニーズと専門職のニーズみたいなのについて

は、分けて集計というか、しておくことが必要なので、こういうものをつくろうという議論になっていけばいいなと考えています。

【委員長】 あと、やっぱり見える化というか、周知させるというか、言われていますけれども、医師会の先生方もよくわかっていらっしゃらないし、これはいろいろ細々とした手続が、手順が必要なのかもしれませんね。

【事務局】 そうですね。先ほど委員長と少し雑談でお話をさせていただいたのですが、周知は2つあって、市民の方への周知ももちろんなんですが、あと医療機関だとか地域のリハの方への周知もやっぱりまだまだ足りないだろうということで、今、担当のほうもいろいろ考えていて、今年度見学会をやってみようとか、元気塾のプログラムを市民の方に一度体験してもらおうとか、そういった形で周知もあわせて進めていきたいなど。

あとは、先生方にどうやって周知をしていけばいいのかということで、ちょっとご相談をさせていただいたような形なんですけれども、昨年度、研修もさせていただいたんですが、やはり皆様とてもお忙しいということで、参加者数はそんなに多くは見込めないということなので、包括さんへのヒアリングもさせていただきつつ、市民の方や医療機関へのPRも行っていきたいと思っております。

【委員長】 包括が地域の開業医の先生に、こういう場がありますということの提供ってほぼしていないんですかね。していないですよ。

【委員】 個人的にこの方がここに行くので、アドバイスいただけますかというところはしますが、住民全体に、先生個人的にこういうところがあるので、何かあったらご指導くださいというところまでの働きかけはしていません。

【委員長】 多分、市役所が行くよりも、こっちが行ったほうが私はいいんじゃないかなとちょっと思っているんですよ。要は、医師のほうは、何か介護保険事業の延長ぐらいにしか考えていないんですよ。でも、ほんとうはこういう人たちというのは、外来で血圧の薬をもらってくるような人たちが対象なので、外来患者さんなんですよ。だから、そういうアプローチが私はいいのかなと思います。

あとはよろしいですか。では、一応、了承という形で、次に進めさせていただきます。協議案件になります。介護予防手帳について。では、ご説明をお願いします。

【事務局】 介護予防手帳は、多摩市在住の65歳以上の方を対象として配付を行うものです。地域介護予防教室などの介護予防事業に参加をするに当たりまして、1年間の取り組み計画を自分自身で考えることや自分だけで難しいことは支援・サービスを選択して

利用するセルフマネジメントに活用いただくために作成いたしました。

多摩市らしさとしましては、利用者基本情報や介護予防に関する啓発資料のほかに、終活についての項目を掲載している点です。掲載しているページは19ページになります。

「これからの私のプラン」と題しまして、あくまでポジティブにこれからの人生について考えていただくことを意識いたしました。

また、5ページから11ページにフレイルについても掲載いたしました。フレイル予防のキーワードや詳しい予防法などについて掲載いたしました。

今後、市民にご意見をいただきながらつくり上げていきたいと考えております。

令和2年4月より配付を開始する予定です。ご意見は後日、ご連絡をいただく形でも構いませんので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

今、初めて手にしますので、いろいろお気づきの点は、これからだんだんあるかもしれませんが、一応、方向性としてはいかがでしょうか。よろしいかと思いますが。またいろいろなところで市民の方々のご意見も頂戴しながらこれをつくり上げていくということのようです。

本件、ちょっとないですか。ざっと。急であれですけど。

【委員】 ごめんなさい、いいですか。

【委員長】 はい。

【委員】 これと41ページに体力測定の結果を張りつけてくださいと書かれていて、体力測定の結果が大体A4で配られるかと思うので、そこを……。

【事務局】 A4の半分ですね。A5。

【委員】 に変更していく？

【事務局】 A5でもともと切っているのです。

【委員】 わかりました。すいません。

【事務局】 ちょうど張れる大きさ。でも、字が小っちゃかったりとかはするので、もう少し字は大きくする予定でいて、文字も多目なので、文字も減らそうと思っております。あとは、今後、市民の方からのご意見もいただくということで、主には介護予防リーダーさんたちにいろいろとご意見をいただく予定でおりますので、リーダーさんたちからたくさん意見が出ると思うので、また結構変わる可能性はありますが、来年度からは配付して

いきたいと思っています。

【委員長】 これは年度でまた新しいのをもらおうと？

【事務局】 一応、2年間記録ができるようにしているんです。なので、カレンダーは2年分入っています。

【委員長】 どうぞ。

【委員】 とりあえず1つずつ発言させていただこうと。

先ほど戸川係長がおっしゃったような体験するのはいいなと思っていて、そうするとTFPPの中に案内したら、TFPPをやってもらったら、次、体験するところはここにありますよみたいなことを紹介していくというのをやって、こっちの手帳のほうにも、自分のために将来に備えて体験するというので、例えば社協の場所を調べますとか、行ってみますとかで1個ぼんとはんこが貰える。それから、TFPPも入るでしょうし、元気塾、1回見学に行きますとか、地域包括支援センターの場所、今10ぐらいあって、そこを全部、今から準備していくと。もう一つは、家族のためにということで、家族のためのリストもつくって、その中には地域包括ケアでいうと、医療と介護と住まいがございまして、住まいについても例えばグループホームとかシェアハウスとか、それから、そういう施設、カフェになるようなところ、そういうところも大変の場所に入れておいて、はんこをぼんぼんとやればればいいなと思ったんです。

なぜかという、多分ここに書いてある状態に来るまでもうちょっと時間があるなという人が、興味、感心が高いんじゃないかと思うんですよ、実際は。そういう人たちがすぐに使えるとなると、そういう準備的なところかなと思うので、体験スタンプみたいなものを思いついたんですけど、戸川係長がおっしゃったから、そういうのがあるといいなと思いました。

【委員長】 スタンプラリーみたいな。

【委員】 うん。

【事務局】 おもしろいかもしれないですね。一応、事業者などには協力いただくみたいなので、何かご協力いただいたらホームページに載せますみたいな、PRしますみたいなインセンティブをつけて。それで何かめぐってみる。

セルフケア、ご自分で知るとか、学ぶとかということをして1つのキーワードにできればいいかなと思って、先生がおっしゃったとおりに体感するということを入れてというのはとてもいいですね。家族のためにというのなかなか心をつかまれる感じがしました。

いきなり終活もいいんだけど、そこまで行く前にあなたまだまだやることあるよみたいなね。終活はちょっと、え？ いきなりここまで行っちゃう？ と思ったんですけど、その前段階で何かあるとすごくいいなと思いました。

【委員】 終活について、今、多摩市の皆さんと二月に1回ずつぎっくばらんにお話しする会を持っていますが、この前、メンバーの中で亡くなられた方もいらっしゃいました。やっぱり終活についてはみんなも少し考えなきゃいけないねという話がありました。興味関心としては高いと思います。

【委員長】 川崎先生からはよろしいですか。

【委員】 先ほどメンバーズカードというのがあったんですけど、それとこれ、そういうのにつながらないかなという。

【事務局】 一応フレイルのページにIDだけを入れるようにしているんですけど、なかなか年間の予定表とかが立ちにくいものですから、ほんとうは日にちとかもご案内ができればいいんですけど。また体験したらスタンプを押すといいかなと思いますけどね。

【委員長】 カードのほうがおもしろいかもしれないと思います。私、こんなに行ったのよみたいな。

【事務局】 カードという案も出てましたね、先生ね。

【委員長】 じゃあ、進めていただく方向で承認いただいたと思います。

では、2番、第8期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画改定に向けての取り組みについて、よろしくお願いします。

【事務局】 それでは、お手元の資料5、A4の表裏の資料をごらんください。今までの資料3の昨年度の事業の振り返りとか、今年度の方向性にもかかわってくることはありますけれども、一応、第8期の高齢者保健福祉計画策定に向けた取り組みについてということで、紙面のほうにまとめさせていただきましたのでよろしくお願いします。

計画の目的は、ここに書いてあるとおりです。住みなれた地域で自分らしく安心して暮らし続けることができるように仕組みをつくっていくというところです。

計画の期間としては、令和2年に見直しの期間が来て、3年から第8期が始まるということになっております。

3番です。計画策定に向けた取り組みというところで、サービス事業についての評価を主に行って行って、サービス事業の充実を図っていきたいと考えております。現状分析する上での視点としましては、住みなれた地域でいつまでもその人らしく暮らし続けるため

に、本人をエンパワーメントできたかというところと、あともう一点、その人がもとの暮らしに戻るためにどう支援していくかというところを大事な視点として振り返りをして、第8期に向けて取り組みを決めていきたいと思っています。そのために、継続した地域とのつながりとか介護度の変化に着目をして、評価、分析をしていきたいと考えております。

一応、評価、分析の方向というのが①から⑤という形で裏面にかけて書いてあるんですけども、それらの分析によって導き出される仮説として2点挙げております。地域とのつながりを持ち続けられ、その人らしい生活や暮らしを支える上で、通所型短期集中予防サービス、元気塾は有効であるということと、住民主体の通いの場がその人にとって身近な生活を支える場になっているというところを導き出していきたいなと思っています。

分析する内容になります。①のところ、まずは実態調査ということで、来年度、実態調査をやっていく予定なんですけれども、基本的には介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を生かしてやっていくというところで、このニーズ調査につきましては、65歳以上の高齢者の方で、要介護を受けている方を除く4,000人を予定しております。調査項目は、もう国のほうで決められている必須項目というのが33項目ありまして、それにプラスオプション項目というのが30項目ありますので、その63項目に加えて市町村の独自項目ということで、多摩市の特徴を踏まえたものを追加していきたいと考えております。多摩の場合は、都内では健康寿命がとてもよいと言われておりますので、その裏づけになるようなものも含めた形の項目ができたらいかなと考えております。

一応、今のところ案として考えているところは、住んでいる階、4階に住んでいるとか、3階に住んでいるとか、1階に住んでいるとか、そのあたりの階数とか、エレベーターの設置があるかどうか。多摩の場合は、エレベーターのない団地がたくさんありますので、そのあたりも一応あわせて聞いていきたいということと、フレイル予防事業を昨年度からやっているというところで、フレイルという言葉を知っていますかというような内容のものも加えていきたいということと、あとは、毎日の歩数とか歩行時間です。一応、15分以上歩けますかという項目はあるんですけども、多摩の場合は、結構ノルディックウォーキングとか、いろんなウォーキングコースができていたりとかということもありますので、こんなことも聞けるといいのかなと思っています。あともう一つは、役割期待についてということで、これは大淵先生をはじめ東京都の介護予防推進支援センターでいろいろ介護予防事業の評価というところで検討していただいている中で、役割期待という項目も調査項目に加えていったらどうかということもありますので、そのあたりの項目も踏ま

えて実態調査を行っていきたいと思っております。これが①です。

裏面に行きまして、②としまして、介護予防・生活支援サービス事業の利用状況の分析ということで、これについては、ア、イ、ウの3項目について分析をしていきたいと思っております。1個目、アとしては、要支援者・総合事業対象者のサービスの利用状況を把握するというので、平成31年4月時点で要支援認定者及び総合事業対象者の方がどういうサービスを使っているのかということで、利用者数を調べていきたく思っています。これは、今までの現行相当の総合事業の通所介護とか訪問介護に加えて、訪問リハとか訪問看護とかも使っている方についてもその数を出していきたいと思っております。

2点目、イとして、総合事業通所介護・総合事業訪問介護の新規利用者のプランの見直しということで、平成30年度のこれらの新規利用者の方々のADL、IADL、生活機能、自立度、利用しているサービス、サービス計画等を見直して、個別の課題とか不足するサービス、地域課題についてを明らかにしていくということで、1件1件プランを見させていただいて、それらをデータで集計したりということをやっていきたく思っています。これについては、平成30年度に自立支援型の地域ケア会議ということで、新規のみなしのサービスの方たち約80件実施しておりますので、その人たちのプランとか身体状況等調書という個人の状態が全部書かれているものを洗い出して、分析をしていくということを考えております。

3点目のウです。認定は受けたけれどもサービスを利用していないという方がいらっしゃるものですから、そういう方たちの申請理由を把握しようと考えております。こちらは、介護保険の申請のときに申請書とあわせてもう一枚、介護保険の確認表というのを書いて出すんです。どうして申請をしたかという理由を書いたりする紙があるんですけども、そちらの見直しをさせていただいて、申請理由を明らかにしていくというところで分析につながるかなと思っております。ただ、これは介護保険課との調整が必要なもので、ちょっと時間はかかると思っております。

それから、大きな③として、経年的な変化を見るというところで、こちらについては2点、アとイをやっていきたく思っています。アとしては、元気塾の利用者のその後がどうなっているかというところを見ていこうと思っております。これは、平成29年度の元気塾利用者が平成31年4月現在で介護度がどういうふうになったかというところを見ていきたく思っています。元気塾終了後、地域の活動につながった者のその後の介護度の変化もあわせて見るというところなんです。これらを見ていくことによって、元気塾利用により

効果がある年齢層とか、あとはプログラムの内容とか、先ほどから出ています送迎の問題とか、その辺もあわせて検討できるかなとも思っています。

それから、イとして、総合事業の通所介護・総合事業訪問介護利用者のその後ということで、平成29年度、平成30年度に新規でこれらのみなしのサービスを利用した方々が、平成31年4月現在、介護度がどうなっているかというのをお一人ずつ確認していきたいと思っています。これは、平成29年度と平成30年度に自立支援型の地域ケア会議の中で、新規のみなしの利用の方々が137件ありますので、それらの方々について介護度がどういうふうになったかというのを調べていきたいと思っています。一応、主なところはそこです。

あと、④、⑤としては、ここに書いてあるとおりで、住民主体による訪問型サービスについては、サポーターさんが約200名いらっしゃるんですけども、その方々に今年度アンケートをとっておりますので、サポーターさんの活動実態を把握して、その後のフォローの仕方とか養成のあり方についてあわせて検討していくというところです。あと、必要に応じて包括のヒアリングをするということで、一応、第8期に向けてこんな形のを調査分析しつつ、サービス事業の構築を図っていききたいと思っております。もっとこういうやり方がいいんじゃないかとか、ご意見があったら教えていただければと思います。

【委員長】 ありがとうございます。

たくさんいろいろありますけれども、ご意見、ご質問はありますか。

やっぱり元気塾を使ったほうがよかったですよねとか、そういうふうに持っていけたらいい。

【事務局】 そういうふうに持っていきたいと思っています。

【委員長】 そうですね。

【事務局】 はい。

【委員長】 そうするとやっぱり使ってない人はどうなのというところもあると多分…、さっきもちょっと言っていたんですけど、利用したからよくなったというのはなかなか厳しい状況で、現状維持でオーケーだよという話ですよ。

【事務局】 そうですね、はい。元気塾は、基本的には4カ月たったときの目標の維持達成率って85%ぐらいなんです。なので、あとは体力測定の結果もかなりの確率で維持向上しているので、自分で言うのもなんですけど、ほんとうにいいものだなと思っております。一方で、新規でみなしの総合事業通所介護とか、従来あった現行相当のそういった

サービスを使っている方が、1年、2年たつて介護度が要支援1、2から落ちているという方が多分いるんですよ。なので、そこら辺との比較とかも出せるといいのかなと思って
いるんですけども。

【事務局】 あとはやっぱり地域の資源につながったかどうかというところが、従来の介護保険サービスだとなかなかインフォーマルのサービスにつながるということが少なく
今、一生懸命包括の皆さんが——例えば、進行性の病気をお持ちの方だと要支援1の方でも、やっぱり元気塾で短期というよりは、もう少し長いスパンで、送迎があつて通えて、
一定程度の体力維持が可能なところへということを選択する場合もあると思うんです。そういうプランの中でも、地域の資源につながっているというふうに努力していただいているとは思いますが、なかなか全体とすると、地域とのつながりというのは、やはり元気塾に行くと、その後、地域介護予防教室ですとか近トレとかというところにつながる、数だけ見ているとそれが高いので、そういうところも1つ基準になっていくかなと。
みんなが地域で高齢者を支えていくんだというところも醸成できるのかなというところが数として出るといいかなと思っています。

【委員長】 要支援1でも通所介護と違っているかもしれないし、利用していない人はどうなんだろうとか。

【事務局】 そうですね。

【委員長】 ざくっと3人ぐらいで。ご意見、ご質問とかないですか。

【委員】 じゃあ。

【委員長】 はい、どうぞ。

【委員】 すいません、事務局の皆さんの仕事が増えると困るのですが。まずは、3番目の計画策定に向けた取り組みのところ、頭の整理として考えるべきだと僕が思うのは、後期高齢期にある方々が最終的に居場所になるのはどこになるのかというのをある程度整理したらどうかと。一応ご近所体操とか、そこが基本的に居場所ですよというふうにまず整理をします。そうすると、それに対して元気塾であったりとかA型サービスであったりとかがどう連携しているのかが見えることが大事になりますよね。具体的に言うと、ご近所体操の中から状態が悪くなって元気塾のほうにつながった人の人数がどうかとか、あるいは、A型とか従来型のサービスのところからご近所体操につながった人がどうなのか、そこが見えるようになるのが、先ほどおっしゃったような地域の資源との関係になるので、みんなにそういうケア会議とかで話してほしいんですけど、大事なところは、多摩市の市

民としてどこが一番居心地がいい場所なのかというのを決めたらいいと思うんです。前、僕が資料を見せたような埼玉県だと、地域づくりによる介護予防の部分のところはベースにあって、その上にいろんなサービスが回っているようなスキームを描いているんですけど、そういう絵をつくった上でその係数がわかるように整理をするというなと思ったところなんです。

2つ目は、高齢者実態調査のところ、東京都版の通いの場のアウトカム指標について入れていただくということで、ぜひよろしくお願いします。一応、東京都版としていただければありがたいと思います。

【事務局】 東京都版、はい。

【委員】 次の裏面のほうで考えるべきなのは、そういう地域のことを考えてみると、各生活圈域ごとに差がというか、それをどういうふうに整理するのかというのが今回の論点だと思うんです。その中で、例えば、要介護の人の数とかが、ご近所体操がいっぱいあると少ないとか、そういう分析になってくるわけなので、生活圈域ごとにどういうふうに分析するかという視点を持ったら、次の、坂が多い地域だったら、例えば、整形外科疾患で要介護の人がいるんだみたいなことが見えて、それを包括とか社協とかと一緒に、じゃあこの地域をどうしていこうという議論になるもの下地をここで示すのが重要になるので、圏域ごとで分析していくという視点を持たれたらどうかなと思ったところなんです。

あとは、この視点の中身自体は全然構わない、すばらしいと思います。ぜひ、TFPP参加者数もそこに入ったりとかして。

【委員長】 市町村独自項目ってどれぐらいなんですか、20とか……。

【事務局】 一応、20、30……。

【事務局】 あまり多くなってくると……、回答率が今、70弱ぐらいで85%ぐらいなんです。このオプションと市の独自項目で重なる部分も結構あるので、それで今、回答率が70弱ぐらいで85%ぐらいなんです。これがやっぱり……。

【委員長】 それ、郵送して返ってくるんですか。

【事務局】 そうです。

【委員長】 すごいですね。

【事務局】 そうです。高齢者の方はほんとうに、市役所から手紙が来ると必ずきちんと書いて返送していただく。こちらのニーズ調査というのは基本的にお元気な方にお出ししているので、今年もそのぐらいたくさんの方に答えていただきたいなと思っているんで

すけど、あまり項目が多くなると高齢者の方のご負担になりますので。

【委員長】 あれですよね、包括は1戸ずつ訪問するじゃないですか。85%も相手にしていただけます？ 私はもっと低いような気がするんですけど。だから、ここよろしくねって、包括が行ったらよろしくねってほうがいいんじゃないかなと思ったぐらいすごい回答率ですよ。

【委員】 はい、すごいですね。今の総合事業が始まる前の二次予防事業のときに、私は川崎区にいたんですけれども、川崎市は、25項目の基本チェックリストを、65歳になると2年ごとに全員に送っていたんです。7%の返信率しかなくて、二次予防の効果が全然得られないということで、そこで総合事業に切りかわったんですけれども。だから85%って聞いてすごいびっくりしました。

【事務局】 前、その二次予防事業をやっていたときは、多摩の場合は回答が8割超えなんです。だから皆さんほんとうに真面目に書いて送ってきてくれるという。

【委員】 何でそんなに川崎が低いかなって感じがします。

【事務局】 そうですね、そっちが……。

【委員】 聞いたあれで6割ぐらいだけだな。

【事務局】 100項目を超えると6割ぐらいになると聞いています。

【委員長】 なるほどね。

何かよろしいですか。ご質問とかないですか。先生、何かありますか？

【委員】 大丈夫です。

【委員長】 大丈夫ですか、はい。

じゃあ、これはまた継続で。

【事務局】 そうですね。次回のときには、ある程度分析した結果とか傾向とかをお示しできるかと思しますので、またご意見いただければありがたいと思います。

【委員長】 はい。では、さらっと行きました。では、次に行きたいと思います。

では、8番、その他になります。よろしくお願いします。

【事務局】 その他ということで、評価委員会の今年度の開催について、当初は2回ほどと考えていたんですが、今、手帳の件と、あと、この介護保険事業計画に向けてのいろいろな分析結果などをこちらにお示しをして、やはりもっとご意見をいただきたいというところで、今のところ事務局としては2回目を11月初旬、3回目を2月か3月に開催したいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。お忙しいのかなと思いますが、できれ

ばこの形で。今日、2回目が決められれば非常にありがたいですが、どうでしょう、11月。

【事務局】 19日の3時ということで。また場所は追ってご連絡いたします。ありがとうございます。

【委員】 資料をできたら事前にいただけると、もうちょっと見てくるとかできるのかなと思って。

【事務局】 そうですね。申しわけございませんでした。

ほかの方は大丈夫ですか。

【委員】 大丈夫です。

【委員長】 松本さん、よろしいですか。

【委員】 さっきアンケートの回答率がすごく高いというお話を伺ったんですけども、こちらの昨年度の結果とかを見せていただいて、なかなか認知度が低いような事業もあるということで、それをそのアンケートに同封するようなことができないのかなというところなんです。話が戻ってしまってあれなんですけれど。

【事務局】 なかなか郵送料とか。

【委員】 そうですよ、重くなっちゃうとね。

【事務局】 ちょっといろいろございまして、どこまでか……、実は、毎年9月に長寿を共に祝う会といって75歳以上の方をパルテノン多摩にお呼びしまして、お祝い会をやっていたんですけど、パルテノン多摩が改修に入りまして、今年度は使えないんです。それで、今年度は、75歳の方に——2,000人ぐらいいるんですけども——皆さんにお手紙でおめでとうございますというのと、この介護予防とか、元気なあなたができる方法がこんなにたくさんあるんですみたいな、そういうちょっとカラーのすてきな、こういう殺風景なものじゃなくて見やすいものを、参加者の方の声も入れつつ、作成予定でございまして、そういう形で広くPRしていきたいなと思っておりますので、一応それでかえたいなと思ってます。でも検討いたします。ありがとうございます。

【委員長】 では、よろしいですか。かなり早く、スピーディーに終わりました。皆様、ご協力ありがとうございました。では、次回は11月でございまして。よろしく願いいたします。お疲れさまでした。

【事務局】 ありがとうございました。

— 了 —